

COSMOS for one

a2200705 小松 愛実

背景と目的

「どうして人間は存在するのだろうか?」「世界って何だろうか?」

何年も前から私が疑問に思ってきたことだった。前々から考えてはいたが、そこまで深く追求することのなかった疑問であった。しかし、この短大に入学し、クラフトゼミに入り、ものづくりを通してこの考えを深く追求する機会が訪れた。

2年の前期にあった県展の作品を作る際、私は宇宙が好きだったので、それを造形作品にしようと考えた。そこで、なぜ自分は宇宙が好きなのかと考えたときに、人間の存在に対する疑問が関係してくるということに気がついた。

もし地球に水がなかったら、太陽がなかったら、うまく太陽系や他の星々が回っていなかったら、自分たちは存在していなかったかもしれない。星や月や太陽がうまく回っているから、自分たちは存在していただける。偶然にしては出来過ぎなのではないかと言いたくなってしまふような不思議な繋がりを、宇宙は今この瞬間も創り出している。そんな宇宙の神秘的な力を、自分の手で表現してみたい。そして、短大の2年間で追求してきた自分の宇宙に対する考えを造形にしたい。そんな想いもあり、卒業研究の制作テーマを宇宙と決めた。

また、この卒業研究制作を通して、自分がこれまでに学んできた技法のみにとらわれず、さまざまな方法を試しながら漆という素材の新たな表現方法を研究していく。

デザインについて

宇宙をイメージした小さな造形物をたくさんつくり、台座上に並べてひとつの空間を創造する。

使用する素材・・・スタイロフォーム(台座・小物) 木(小物) ピアノ線(小物)等

サイズ・・・90×120(cm)

行う技法・・・摺り漆 変わり塗 研ぎ出し蒔絵

(従来からの技法のみにこだわらず、自分なりに加飾実験を行いながら進めていく)

制作工程

- 台座・小物共通 -

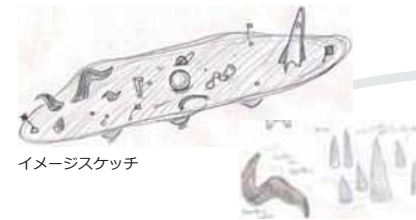
1. スケッチ
2. 素材・大きさを決定
3. 台座・小物の原形を制作
4. 布着せ《強度アップのために原形に布を貼る》
5. 目摺り《布着せにてできた布目を埋めるために施す》
{4-5を2回繰り返す}
6. 下地付け(2~4回行う。ものにより回数は異なる)

- 台座 -

7. 下塗り
8. 追いサビ《面を平らにするために凹面に下地を付ける》
{7-8を面がきれいになるまでひたすらやる}
9. 中塗り(面がきれいになるまで)
10. 上塗り
11. 摺り漆(2回)
12. 胴摺り《ツヤを上げるために行う》
13. 摺り漆(2回)
14. 磨き

- 小物 -

7. 下塗り
8. 追いサビ
{7-8を面がきれいになるまでひたすらやる}
9. 中塗り(2回程度)
10. ものによっては加飾を施す
11. 胴刷り・磨き等



イメージスケッチ



原形完成!



下地付け



下地の段階で配置



布着せ



下塗り



追いサビ



加飾



加飾実験



考察と感想

宇宙を様々な形で表現したいという想いから、小さな造形物をたくさんつくるということに決めたものの、そのため制作するものが多くなってしまい、手こずったところもあった。台はなかなか平らにならず、小物たちに至っては一つひとつにこだわりがあったので、自分の考えたイメージに合うようにどのような技法で装飾を施そうかと頭を痛めた。

漆の表現は多様で、黒いピカピカした面をつくることもできれば、銀粉や乾漆粉などで蒔絵をすることもできる。下地は岩のようなゴツゴツ感を出すのもってこいだ。その多様な表現方法を生かして小物の装飾をしようと考えた。今回はピラミッドや隕石など、岩のような表現を必要とする造形があったので、ゴツゴツ感や古臭い感じを出すために、下地に綿を混ぜてみたり顔料を混ぜてみたり、また、下地を荒く研いだときにできる凹凸感を上手く生かせないかなど色々な実験をした。実験の成果が実り、ピラミッドの外見等は下地ならではの表情を利用し上手く表現できたと思う。そのほか、変わり塗りや研ぎ出し蒔絵等、これまでに授業で学んできた技法やそれらの技法をいくつか組み合わせたりして加飾をした。

2年間の集大成ということもあって、テーマ設定のときはとても悩んだ。だが、この2年間作品づくりを通して考え続けてきた「宇宙」というテーマを短大生活最後の作品にできてよかったと思う。

クラフトゼミで、私は漆でのものづくりを通して手作業でやることの大変さと素晴らしさを知った。そして、何かをつくる際に、「なぜ自分はこれをつくろうとするのか」「どうしてそう考えるのか」などと自分の考えを追求することが大切だということを実感した。また、漆の知識や技術だけでなく、考えを深めたり視野を広げることができた。たくさんものを得ることができた2年間だった。これからもこの短大での経験や学んだことを糧にして生きていきたいと思う。